

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験		17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師		

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 心理学実験と統計の基礎知識
- 3 知覚1—ミューラー・リヤー錯覚
- 4 知覚2—ミューラー・リヤー錯覚
- 5 認知・学習1—鏡映描写
- 6 認知・学習2—鏡映描写
- 7 記憶と忘却1
- 8 記憶と忘却2
- 9 要求水準1
- 10 要求水準2
- 11 イメージの測定(SD法)1
- 12 イメージの測定(SD法)2
- 13 社会的促進1
- 14 社会的促進2
- 15 まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。(10時間)

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント		17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士		

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1 はじめに：心理検査法概論
- 2 東大式エゴグラム
- 3 矢田部・ギルフォード性格検査
- 4 コーネルメディカルインデックス
- 5 BIG FIVE尺度
- 6 津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7 津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9 新版K式発達検査①
- 10 新版K式発達検査②
- 11 新版K式発達検査③
- 12 WISC知能検査①
- 13 WISC知能検査②
- 14 WISC知能検査③
- 15 総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学的支援法		17383	Ⅲ	秋	20
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
津田 明子	選択	1	臨床心理士、公認心理師		

授業の到達目標

本授業では、心理学的支援とは何かについて学ぶ。代表的な心理療法並びに、カウンセリングの歴史、概念、意義、について学び、さらにそれらの適応及び限界についても触れる。その際、適宜事例も紹介していく。また、今後ますます必要になってくると思われる訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても学ぶ。そして、心理学的支援を行う上で必要な、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について、プライバシーへの配慮に触れながら実習などを通して学ぶ。心の健康教育の重要性についても考える。このクラスでは、海星パーソナリティのK（思いやり）とA（自立）を養う。

授業の概要

心理学的支援について、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応、及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、を中心に講義と実習（グループワーク、ペアワーク）を通して心理学的支援とは何かについて学ぶ。

授業計画

- 1 心理療法とカウンセリング①
- 2 心理療法とカウンセリング②
- 3 心理療法とカウンセリング③
- 4 心理療法とカウンセリング④
- 5 信頼実習
- 6 助言の実習
- 7 心理学的支援におけるプライバシーへの配慮
- 8 地域支援と訪問支援
- 9 「宝探しの地図」実習
- 10 心理学的支援を要する人の関係者に対する支援
- 11 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション
- 12 コンセンサスの実習
- 13 「共感」実習
- 14 「純粋性」実習
- 15 心の健康教育

授業の方法

講義と実習（グループ、ペア）を中心とする。実習の後には振り返りを行い、それを基にレポートを提出してもらう。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①グループ実習やペア実習の後には、講義の中で振り返りを行い、レポートの提出を求める。
- ②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

欠席について

連絡なしの欠席は大幅な原点の対象とする。

テキスト

特に用いない。

教員連絡先

tsuda@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学研究法		17387	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師		

授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

授業計画

- 1 心理学における研究
- 2 心理学研究の基礎知識
- 3 先行研究の調査
- 4 研究法の概説 量的研究
- 5 研究法の概説 質的研究
- 6 心理統計法1
- 7 心理統計法2
- 8 実験法
- 9 調査法
- 10 観察法
- 11 面接法
- 12 研究倫理1
- 13 研究倫理2
- 14 研究のまとめ方
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

三浦麻子 著『心理学ベーシック第1巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会・集団・家族心理学		17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師		

授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

授業計画

- 1 社会心理学とは
- 2 認知と感情
- 3 自己概念と自己評価
- 4 ステレオタイプ
- 5 態度と態度変化
- 6 対人関係
- 7 集団と個人1
- 8 集団と個人2
- 9 組織と個人
- 10 集団行動
- 11 心と文化1
- 12 心と文化2
- 13 家族という集団
- 14 家族の心理
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

池田謙一・唐沢 穣・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論		17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性
異年齢集団の遊びの重要性
- 7 集団遊びの重要性
地域、公共物とのかかわりについて
- 8 自然とのかかわりについて(教室を出ての実験体験)
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 伝承遊びについて
- 11 児童文化財について
- 12 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
- 13 季節の遊びについて(お正月)
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・言語心理学		17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師		

授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身につける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 学習理論1
- 3 学習理論2
- 4 学習理論と動機づけ
- 5 自己とことば1
- 6 自己とことば2
- 7 ことばの発達1
- 8 ことばの発達2
- 9 ことばの発達3
- 10 ことばの発達4
- 11 思考とことば
- 12 行動のコントロール
- 13 ことばを育むために
- 14 ことばにおけるナラティブ理論
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』教育情報出版

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語科指導法		17467	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。		

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can・Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキスト 『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

授業の到達目標

- ①障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
 - ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
 - ③障害児その他の配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
 - ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
 - ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
- 以上をライフステージを見通して理解する。このクラスは、KAISEI パーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育を支える理念を理解し、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助について、個々の特性を具体例を挙げて理解を深めていく。また、子どもの保育の実践として、指導計画及び個別の支援計画の作成や個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合いについて、実践例から考えていく。グループディスカッションを通して、意見交換を行い、発表を行う。

発表後、教員がフィードバックを行う。障害児その他の配慮を要する子どもの家庭支援について、具体例を挙げて解説する。最後に現状と課題について考察していく。

授業計画

- 1 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷
- 2 障害児保育の基本と障害のある子どもの地域社会への参加、包容（インクルージョン）と合理的配慮
- 3 肢体不自由児の理解と援助
- 4 知的障害児の理解と援助
- 5 視覚障害、聴覚障害、言語障害児等の理解と援助
- 6 発達障害児の理解と援助①（ADHD）（LD）
- 7 発達障害児の理解と援助②（自閉スペクトラム症）
- 8 病弱、重症心身障害児、医療的ケアの理解と援助
- 9 その他特別な配慮を要する子どもの理解と援助
- 10 個々の発達を促す生活や遊びの環境
- 11 指導計画及び個別の支援計画の作成

- 12 子ども同士の関わりと育ち合い
- 13 家庭及び自治体、関係機関との連携①
- 14 家庭及び自治体、関係機関との連携②
- 15 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」株式会社 みらい

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障害者施策および事業に関心を持つ

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 特別支援教育の現状
- 3 視覚障害の理解と特別支援教育
- 4 聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5 言語障害の理解と特別支援教育
- 6 知的障害の理解と特別支援教育
- 7 発達障害の理解と特別支援教育 1
- 8 発達障害の理解と特別支援教育 2
- 9 肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10 それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- 11 それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 12 特別支援教育の変遷
- 13 生涯発達支援について 1
- 14 生涯発達支援について 2
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。